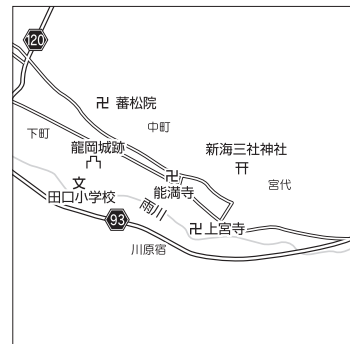


24 上宮寺梵鐘 じょうぐう じほんしょう



指 定 県 宝 昭和52年 3 月31日
 所在地 田 口
 所有者 上 宮 寺



田口川原宿の真言宗上宮寺の鐘楼にかかる梵鐘は、南北朝時代初期の作で、鎌倉時代（1185～1333）の風格を保っている点、県内でも数少ない貴重品として昭和15年（1940）国の重要美術品にも認定された。その後、国の認定ははずされたが、昭和52年（1977）県宝に指定されている。

梵鐘の鐘身高約70cm、竜頭高約17cm、口径約50cm、この梵鐘は、古さにおいて重要であるとともに、その由緒来歴の上からも特殊な意義を持っている。鐘は銘文に次の陰刻がある。

南閩浮提 大日国 上野国 群馬郡 高井郷 東覚寺推鐘。

曆応元年戊寅十二月廿一日。 大工浄園、

當寺衆徒等、勸進沙門良義、本願主昌助藤原亀乙丸

信州佐久郡田口神宮寺 旦那田口左近将監長能、

奉寄進新海大明神御宝前、天文十二年癸卯十一月吉日、

この意味は、曆応元年（1338）に上州東覚寺のために作られた梵鐘が、200余年後の天文12年（1543）田口長能から新海大明神へ寄進して神宮寺に納めたということであり、現在の上宮寺は、明治以前新海三社神社の別当寺として神宮寺と称していたのである。

つまり、今から約670年前につくられた上州東覚寺の梵鐘が200年程後に田口の神宮寺に移動し、それから約460年保存されてきた由緒来歴ある梵鐘である。